

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2371300761
法人名	医療法人香徳会
事業所名	グループホームあおば
訪問調査日	平成 20 年 2 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 1 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2371300761
法人名	医療法人香徳会
事業所名	グループホームあおば
所在地	名古屋市守山区森孝4-124 (電話) 052-775-8667
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(平成20年2月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年4月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	3人, 非常勤 8人, 常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月8日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2	要介護2	2		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 91.3歳	最低	77歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人香徳会メイトウホスピタル
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の広い庭を持つ邸宅を改築したホームである。懐かしい日本家屋の良い所を残しながら、各居室は完全にプライバシーが守られ、内部はスロープの取付け等入居者の身体的状況に合わせて安全面に配慮している。このホームは同性で介護、生活支援をしたいという考えで、入居者は女性限定である。終末期に向けた取組みを体系化しており、その意志確認は入居開始時から始まり、入居者や家族は納得してホームに最後まで委ねられる安心感を持っている。管理者やベテラン職員、新人職員が「いつまでもその人らしさを大切に」の理念のもとに質の高いサービスを提供しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点として市町村との関わりで、管理者が名古屋市のグループホーム職員を対象にした研修会で世話係として係わっており、大学の授業の特別講師として認知症についての講義も行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	職員の交代があり、サービスの質の維持を優先していたので、職員は自己評価には参加していない。管理者のまとめた自己評価は確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの活動内容等の報告を行い、出席者の質問について答えたり、出席者から地域の様々な情報の提供と活動への助言を受けて、秋には保育園の運動会に参加したり、名古屋まつりのパレード見物には良い場所を確保するなど活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情等を言って頂く機会として、家族会を年1回催したり、苦情箱を設置している。ホーム訪問時の会話の中から家族の意見をくみ取ったり、運営推進会議で意見をもらったり、介護サービスや運営面に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して普通の一軒の家として近所付き合いをしている。清掃や草ぬき活動の時はお年寄りだからと免除してもらったり、お祭りの時にはお神輿を担いで訪問して、ホームへ上がって入居者との交流を楽しんでいる。また、ホーム周辺の道路をホーム職員が自主的に清掃しており、自治会に認められている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつまでもその人らしさを大切に」の理念のもとに、入居者第一に考えて介護業務に当たっているが、「地域のなかで」という理念は不十分である。	○	地域密着型サービスとして、理念を再検討する事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の上がりかまちの壁に、額に入った理念が掲示されており、職員は十分理解し個性を大切にしながら、安心して楽しい生活が過ごせる様に支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して普通の一軒の家として近所付き合いをしている。ホーム周辺の道路をホームの職員が自主的に清掃しているので、自治会から無料でゴミ袋の提供を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価と外部評価の内容や意味、目的をよく理解しているが、入職間もない新人パート職員が自己評価についての理解が難しい状態なので、今回は管理者が一人で作成している。	○	自己評価について職員全員で関わっていくことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者はホームの訪問医に関わっている歯科医師や町内会長、民生委員、家族代表と法人管理部長と管理者で構成しており、お互いの情報を交換したり、助言をもらい入居者へのサービスに活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	名古屋市のグループホーム職員の研修会の世話係として、行政とは連絡を取り合っており、職員の質やホームの質の向上に関わっている。	○	行政より派遣される介護相談員の受け入れの検討が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あおば通信」でホーム全体の事や各入居者の生活の様子を写真と共にお便りと小遣帳のコピーを送っており、その他新入職員はすぐ写真付きでお知らせを作り、毎月上旬に郵送して家族の信頼を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームと外部2カ所の苦情申立先の明記と玄関に苦情箱がある。ホーム訪問時の会話の中から家族の要望をくみ取っており、また、推進会議の時に意見を聞き運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設5年近くになり入居者と職員は馴染みの安定した関係ある。新人職員は各入居者の性格を踏まえた支援の方法をアドバイスするなど、ベテラン職員のあと押しで良い関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や管理者は、職員が研修を受ける事を奨励しており、内容は月例の職員会議で発表して情報を共有し職員のレベルアップを画っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市のグループホーム職員研修会を通して情報交換をし、課題解決の道を見つけ出している。また、近くの有料老人ホームのイベントへ入居者に同行して、交流を楽しみながら気づきを得ている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、数日間のショートステイ体験をしてもらい、納得の上で入居者となっている。他の入居者とスムーズに馴染める工夫を入居者に応じて配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が主婦としての知恵をホームでの生活に大いに活かして生活をうるおしている。渋柿をむいての干柿づくりは毎年楽しみな行事になるなど特に料理について、学び支えあっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いに添った支援に努めているが、明確な意向がくみ取れない場合は、生活歴や習慣等にも考慮して、入浴時などの入居者の気分の良さそうな時に気持ちを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は毎月の職員会議の前に、各入居者の状況確認書を管理者に提出し、それをまとめて会議の資料として介護計画を検討している。協力医師の意見を参考にして、本人と家族の要望を第一に考えて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に定例の計画見直しを実施するほかに、毎日の生活の中で変化に気付いた時は速やかに新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き居室のある時はショートステイの受け入れを実施している。また、入居者が入院時には職員がお見舞いに行ったり、外部の医師による診察時は通院の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が毎月1回は健康管理の診察に訪問しており、状況に応じて随時訪問がある。ホーム入居時に家族や入居者の希望を聞き、ホームに依頼している。ホームの医師との良い関係づくりの支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から終末期の対応について、本人と家族は説明を受けて書類を整えており、年に1回は再度説明を受けて毎年確認をしている。法人の支援のもと、穏やかな終末期対応の支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者の介護関係書類は職員の確認のしやすさを考慮して居間の見えにくい所に置いている。その他のファイルは鍵のかかる2階の事務所に収納している。入居者への職員の態度はいずれも穏やかで無理強いのない対応である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を伝えるのではなく「どうしましょうね」と入居者に問いかけて、自分のペースで行動して頂いている。自然に生活のリズムが生まれる様に職員は支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が各テーブルに座って一緒に食べており和やかな雰囲気である。座って野菜の皮むきや刻みやお膳下げなど、身体的に無理のない様に食事作りに参加してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂を沸かし、体調を確認してから入浴の案内をしている。木札を掲示して順番に混乱が生じない工夫をしながら入浴を楽しんで頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花好きには庭の花を居間に飾ってもらったり、詩吟の習い事をホームでも続けている。野菜の収穫係や町内の回覧板を隣へ届けに行く係など生活歴からホームでその能力を活かして頂く工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの傍の川沿いを散歩したり、ホーム内の立派な庭には足元が安全な散歩道が整備されているので、入居者の思いのままに日常的に季節を感じながら外気を浴びて気分転換を画っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉寒感を与えないように、玄関は日中の施錠はしておらず、居室の出入口や腰窓も自由に開けられる。押し売り防止等防犯上、門扉は軽く施錠をしているが、家族会で説明をして理解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に入居者の援助活動に自治会から来て頂く約束（近隣防災協定）を結んで避難先の民家との約束が出来ている。警察にはホームの事を理解してもらっており、消防署からは指導を受けて避難訓練をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の希望を組み込んで職員が献立を作り、栄養や水分の摂取はシートに記録して入居者の状態を把握している。自由にお茶が飲める様に急須や保冷ポットに入れて居間に備えており、夜間は小さなペットボトルに入れて各自の枕元へ用意して危険回避に努めている。	○	メニューからカロリー計算をして入居者の栄養管理を数字の上からも確認する取り組みが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな南向きの共用空間から見える広い庭は季節が実感でき居心地が良く、日本家屋のため、庇が深いので強い日射しが入ってこない。居間の他にも静かなサンルームやホールには椅子が置かれて、思いのままに居場所が確保できる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や家族が買い揃えた家具や大きな三面鏡等思い思いに生活しやすく整えられている。地震対策としてタンスの下にはストッパーを付けて、ベッド周囲には落下する物を置かない様に配慮している。		

※ は、重点項目。